

ぎんれいゆ会

平成二十九年八月

炎昼の駅頭バナラ匂はせる

主宰 細野恵久 福祉三期

夏帽子峠地蔵へ飴五つ

増田和子 食文一期

油虫追ひつめたりし老夫婦

改正節夫 国際三期

涼新た脇本陣の深廂

三枝邦光 美工五期

立ち動く揃ひ前掛川床料理

國永靖子 音文六期

山棟蛇観察会の輪が崩れ

猿橋二三雄 福祉八期

カーテンに宿す風鈴の影ゆらり

加藤善巳 美工八期

姫女苑の小葉で吹くなり里の唄

太田 實 国際十期

薄闇に魔女のあやつる芭蕉の葉

今崎良平 音文十四期

夏痩せのおくめの面は母に受ぐ

大下絹子 国際十五期

周航や雲傾けて漕ぐボート

中村建生 国際十五期

暑氣払傘寿を超えた大ジョッキ

藤本武子 国際十五期

幼子や炎昼に追うしゃぼん玉

山下 進 国際十五期

蟪蛄の殻溜息に震えけり

許斐國照 食文十五期

夏草に隣家の庭は飲み込まれ

小淵政子 健福十六期

わが踏むは石か骨片か地のほてり

兼清久子 健福十七期

風読んで紙飛行機は雲の峰

沖本无辺子 国際十七期

気が付けばふつくら萎^{しぼ}む女王花

香春早苗 国際十七期

満天の星降る島の夏深し

仲田慎輔 国際十七期

出迎えは大南京二個盆の寺

中村富美子 国際十七期

鎮まりてアウシユピツに麦熟るる

宮本眞貴子 国際十七期

落とし文一つ拾ひし神話の里

江間れい子 園芸十七期

室外機朝から唸る猛暑かな

小栗恭子 健福十八期

まず鯉鮓帰省の船で食し頃

潮江敏弘 健福十八期

まだうぶ毛青き鎧や鬼胡桃

野見山剛 健福十八期

二十年住んで庭木に蟬の殻

大山吉春 国際十八期

頓堀の色づく夜や鱧の皮

今井義和 美工二十期

銀漢の底黒々と木曾の谷

尾崎育久 美工二十一期

ひから傘くるくる回す初デート

黒木早苗 食文二十一期

越後屋は助役と決まり村芝居

谷口裕 国際二十一期

風鈴の側を居場所に猫と夫

宮脇暁美 食文二十一期

第二百四十回ぎんれい句会（八月十一日開催）より